

第100回 病態生化学セミナー

日時：平成28年5月23日（月曜日）午後6時00分～

場所：医学部講義棟1階 国際交流ラウンジ

演題：治癒を目指すがん免疫療法

Cancer immunotherapy for cure of the disease

演者：珠玖 洋 先生

三重大学大学院医学系研究科 遺伝子・免疫細胞治療学 教授

がんの免疫療法に対する現実的な期待が大きく膨らんでいます。ひとつには、がん反応するリンパ球（T細胞）のブレーキ役となっている分子（CTLA4やPD1）の働きを阻害する抗体療法が、治癒への期待を含める極めて高い臨床効果を示したことによります。メラノーマや肺癌、腎がん、膀胱がん等、いくつかのがんに対する効果が確認され始め、開発している国内外の製薬会社により、既にかん治療薬として承認を受けたものもあります。一方、がんの特異的に反応するように遺伝子改変されたリンパ球の輸注療法についても、リンパ腫やメラノーマに対する目覚ましい効果が報告されつつあります。

私達は、「抗原デリバリーシステム」としての疎水化多糖(Cholesterol Hydrophobized Polysaccharides; CHP)を開発し、CHP-抗原ペプチド複合体によるがんワクチンの開発を進めています。一方で、がん特異的T細胞クローンから単離したTCR遺伝子を患者リンパ球にex vivoで導入、増殖後に輸注するTCR改変T細胞療法の開発を進めています。又、これら異なった免疫療法を組み合わせた複合的がん免疫療法を検討しています。

本日は、最近のがん免疫療法開発の流れをご紹介すると共に、私共の取り組みと最近の成果についてお話しします。【珠玖 洋】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp

博士課程選択必修科目：基礎医科学(D3)、

博士課程選択科目：細胞生物学I(D6)、老化II(D20)、発生生物学I(D15)、発癌I(D22)、腫瘍生物学I(D24)、II(D25)、III(D26)、臨床腫瘍学I(D28)、II(D29)、III(D30)、IV(D31)、V(D32)、VI(D33)、地域がん治療学(D37-1)、口腔腫瘍学(D37-2)、薬物動態学I(D70)、腫瘍免疫学I(D79)、理工医学のための生物材料学(D103)

医科学専攻(修士課程)選択科目：

腫瘍の発生・増殖とその制御(M23)、理工医学のための生物材料学の基礎(M34)を履修している学生は、できる限りこのセミナーに出席してください。